



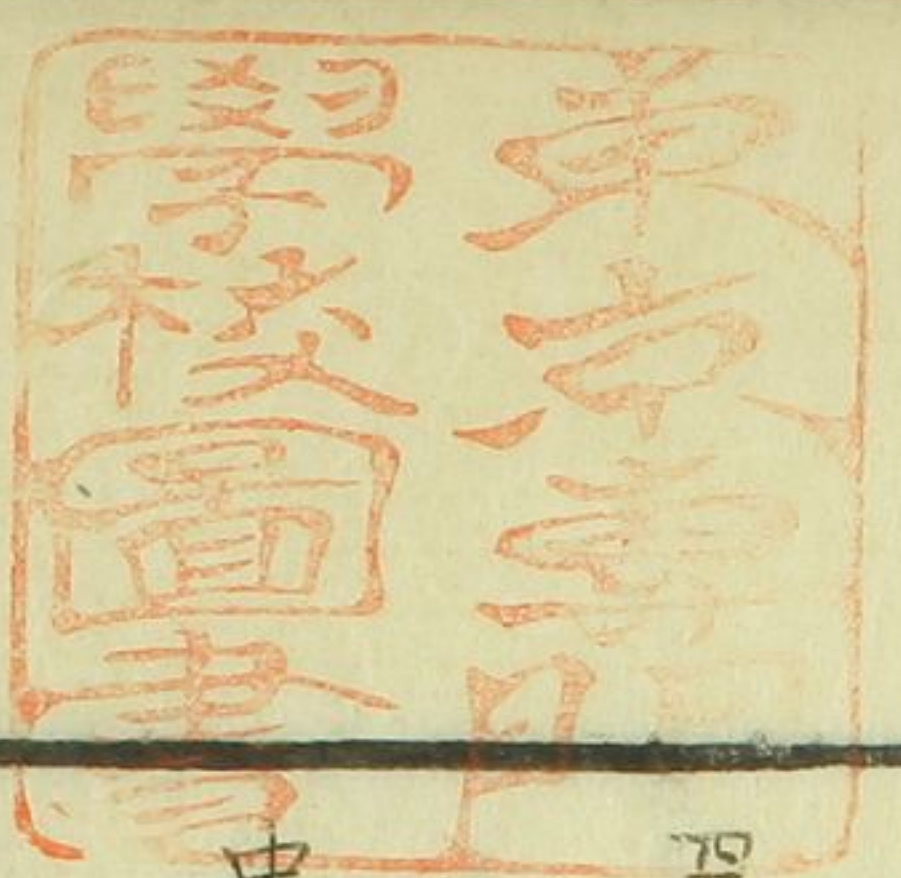
詞乃あまのこ

下

挿し
369
2止



和
369
2



詞八衢下卷

多行之圖

并受てんをほの圖

明治 年 月 日 購求

下二段活	中二段活	四段の活
撫 <small>ナ</small> 捨 <small>ス</small>	閉 <small>ク</small> 落 <small>ル</small>	待 <small>マ</small> 打 <small>ツ</small>
(て)	(ち)	(た)
おんぬいでま	おんぬいでま	おんぬいでま
しるけうて	しるけうて	(ち) しるけうて
おんぬいきつ	おんぬいきつ	おんぬいきつ
(つ)	(つ)	(つ)
とらづらめ	とらづらめ	とらづらめ
(す)	(す)	
おんぬいきつ	おんぬいきつ	おんぬいきつ
(ん)	(ん)	(て)
おんぬいきつ	おんぬいきつ	おんぬいきつ

○此行ゆそ一段の活知なし

○ヤウヤウ下

10

よためしむらうらふて。ひき。終ゆ意蜻蛉日記又袖むらう。時を
かへしむらふむらう。源氏総角かへ袖むらう。たもと堀河二
帝又袖むらう。も此句はむらうを活きて用しむらう
○むらう。万葉十小山の將黃愛古今兼きほむらう。むらう。むらう
むらう。まれ新古今きよむらう。これにむらう。むらう。むらう。むらう
○むらう。出雲國造神賀詞又跡乎知尔御表知坐云。万葉
集十七ふしむらう。れん乎知母かやむらう。同世よむらう。むらう。むらう
や乎知^フ。知^チ。後の哥に郭云。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう
むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう
むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう。むらう

下二段の活詞

此はむらうと俗言にむらうといふ例あり

あむらう。あむらう。いむらう。うむらう。
かむらう。かむらう。むらう。むらう。
たむらう。たむらう。むらう。むらう。
まむらう。まむらう。むらう。むらう。

- あむらう。字鏡又惶急阿和豆とあり。むらう。むらう。むらう。むらう。
- うむらう。古事記上巻かむらう。字豆又兼とあり。むらう。むらう。むらう。むらう。
- ゆむらう。字鏡又燂以菜入湯云。奈由豆とあり。又兼花物に
かむらう。むらう。むらう。むらう。むらう。
- 古事記上巻かむらう。又古今兼春かむらう。むらう。むらう。むらう。むらう。

○妻格の活詞を因の上より記せる性死の詞ニツのこゝろは活
 ざりて大任四位の活れざりて切るゝとゞくこと此詞
 ニツとゞくれゝるのさびニツあり下知の詞を録すのむかし

一段の活詞

小侍
似

小侍
煮

下二段の活詞

此なるを俗言より録するのふゆあり

かぬる。かぬる。かぬる。かぬる。かぬる。
 たぬる。たぬる。たぬる。たぬる。たぬる。
 ぬる。ぬる。ぬる。ぬる。ぬる。

ゆゑぬる。ゆゑぬる。ゆゑぬる。ゆゑぬる。ゆゑぬる。
 ぬる。ぬる。ぬる。ぬる。ぬる。

- かぬる 万葉十八の世にけりとの許登可多林也らとあり
- たぬる 万葉五よたつはえさうに多何林搜とよらあり
- たぬる 万葉十五よきさうつゆへさうれたがさやとあり
- 多多林云とあり
- たぬる 蜻蛉日記よみかへひきさきむねたぬるつとあり
- たぬる 古事記下巻より須岐婆奴流母能 ちりて万葉集二ふ
- 奥津かいけりて波林そ邊津かいとあり
- たぬる 日本紀用明巻より摠攝万機をよらぬとあり

○きりふ下

○よ

下二段活	中二段活	一段の活	四段の活
辨 <small>星加</small>	侘 <small>戀</small>	噴 <small>テ</small>	問 <small>逢</small>
ㄱ	ㄷ	ㄷ	ㄹ
みんぬいでま	みんぬいでま	みんぬいでま	みんぬいでま
しるんて	しるんて	しるんて	しるんて
まぬなき?	まぬなき?	まぬなき?	まぬなき?
ふ	ふ	ふ	ふ
とらづらめ	とらづらめ	とらづらめ	とらづらめ
ㄱ	ㄷ	ㄷ	ㄱ
まを小まか	まを小まか	まを小まか	まを小まか
ㄹ	ㄹ	ㄹ	ㄱ
とやま	とやま	とやま	とやま

○まらちのこ下

○上

波行之圖 并受てたまはの因

日ごころをふ。ぬか。か。ら。う。て。と。よ。ま。り。 続日本紀宣命。又萬
 政撰以をよ。後。う。の。ら。め。こ。ま。ふ。か。わ。ら。て。や。ら。ら。う。
 散木寄歌集。秋。教。の。奇。れ。さ。し。書。又。大。か。こ。ふ。こ。ま。て。か。の。ま
 し。ぬ。る。こ。ま。ま。た。よ。あ。め。
 ○ゆ。ご。ぬ。る。日。本。紀。か。付。を。ゆ。ご。ぬ。と。よ。ま。り。
 ○わ。が。ぬ。る。大。和。物。鏡。又。か。へ。ら。が。ま。て。ゆ。ご。み。ら。う。又。枕。草。紙。小
 づ。か。ま。か。ま。ら。し。ん。ま。ら。ぬ。い。し。へ。う。

四段の活詞

あひ

あがふ

あがらふ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

あがらむ

ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ
 ちかよ ちかよ ちかよ

○阿ふ。万葉集十七の安賀布のそと。字鏡ふ安賀布
 ちかよちかよ
 ○阿ふ。古事記中巻ふ始爲阿藝登比 蜻蛉日記
 ちかよちかよ

ちかよちかよちかよ

○阿ふ。日本紀神代巻ふあゝちかよちかよちかよ
 ○阿ふ。日本紀神代巻ふ奸賊とあ素
 ○阿ふ。万葉二の御軍乎安騰毛比賜又九ふ阿騰母比
 ちかよちかよちかよ
 ○阿ふ。続日本紀宣命ふ阿奈奈比奉とああ
 ○阿ふ。日本紀仁德巻舒明巻ふ不和とああ
 ちかよちかよちかよ
 ちかよちかよちかよ
 ○い。古事記中巻ふえちかよちかよちかよ
 ちかよちかよちかよ

○阿ふち

とあり

○いさふ 大和物語よりいさふかきあり 落窪ものかきあり
いさふいさふあり

○うげふ 古事記上巻ふ宇気布とまに 伊勢物語よりいさふ
まにまに人ともうげふまにあり

○うねふ 万葉十八又神あひ宇豆奈比 続日本紀宣命
ふ相宇豆奈比奉たるとあり

○うはふ 拾遺集よりいさふありと 丹後守忠直百より
忠直の妻の衣のうはふありかきあり

○かふ 万葉九又加賀布 嬬歌よりあり

○かふ 金葉集雜ふかふ垣余の好忠集にかきあり
のまに 堀河より雜ふかふあり 紫の唐丹後守為忠
家より仲正かきあり

○かふ 古事記中巻掠取其母王 続日本紀宣命に高脚
座、次手加藤毘奪まゝ皇位乎掠 天あり又日本紀継體卷
み捉をかきあり

○かふ 万葉十八ふかふ加多波牟かき 後撰集春ふ山風
花の香かきあり

○かふ 万葉四又久流比又久流比ありゆるるるも
○かふ 日本紀神代卷ふ登稜威の噴讓又神武紀ふ詰噴之

又万葉十一ふそに所噴也思ふあれを又十四ふ約もそいふ
はよ又許呂波要なるもほりはて此初中二段の活りともあそ
あまそまのいふ中二段の活初の其第一の事
よあり良行の下二段の活ふことをれきなり例なりしかくふ
きこは四段の活よりまればなりこらごえハこらづれあり
○さくくふ大枝詞又佐須良比るきたりてん源氏抄あり
徳甫ふあるもいふはまたさうふたさう金葉集恋并
ゆれきもいひておほあり此初中の行の下二段の活よりいひて
あまそまのいふ

○さくくふ源氏抄よりあそきたりてん散木寄歌集に

山陰よせばあまそまのいふことあらおほありていひていひ人いふ

○志まふ古事記下巻又勅自進赴云々続日本紀宣命
進退をさくくふあり

○志まふ万葉集三ふまのそみ之奈布せひ山まう十三ふま

乃四名比はくそ又二十ふま之奈布きみうまがくそ又

好志集より尾母そ志まふこと又いふあり又也行の下二段の

活よまたまふ志まふ事志まふこといふ行ありこれ

これ初も今八回し意とまらぬがかり行も活も異つて同

なる例なるれを異なるとあるもやうき活りそんが
あしはくくふあり

(一) 志らか小源氏竹川巻よ見えきりかひまうく徳角巻よ
もきりかひたかああり

○たふ 続日本紀宣命お多波受とあり又後またりびた
なまきりかひたかああり

○たはふ 万葉十九ふ多久波比あきそとありはそ外は活
ききりかひたかああり中二段の活きりかひたかああり

此初巻よ用ゆる下二段の活きりかひたかああり
たふ 続日本紀宣命お多波受とあり又後またりびた
なまきりかひたかああり

○たはふ 万葉十九ふ多久波比あきそとありはそ外は活
ききりかひたかああり中二段の活きりかひたかああり

○たふ 続日本紀宣命お多波受とあり又後またりびた
なまきりかひたかああり

○たはふ 万葉十九ふ多久波比あきそとありはそ外は活
ききりかひたかああり

ほろりたるかきかき

○まづふ 日本紀補武卷千九百三十三のまづふの茂登倍モトノタケ
古事記のまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ
受ふまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

○まづふ 字鏡小飼寄食也モロ良比波ヒ死シとシたり

○まづふ 続日本後紀長歌よふまづふハカセ博士ハカセ不フ雀セ類レとシり

○ゆまふ 源氏紅葉賀ふ心ゆまふマコトなまふマコトとシり

○よろふ 万葉マンヤクよふヨクふフふフ布フとシり

○よろがふ 源氏夕貞ふヨクふフふフとシり

○まづふ 万葉マンヤクよふヨクふフふフとシり

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

まづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふのまづふまづふ

此初麻行の二と四段の活をれと毛け行より始りて
此活のしるしをてしるし類なるかゝるものあり

○いなまゝる 源氏末描花のしるしぬは心して 又若菜のたぐ
しるし。又惚角のえりしるし。なまのたぐあり

○しるし。祝詞の疎夫留まら疎備なるなりこれと麻行
の二と四段の活なり

○しるし。三代実録の憂比なりははるしるしなり
行の下二段の活なり用ひしるしを右の如くあるを四段の活に
格まらばれ此外の活のしるしを何れも
かゝるしるしを四段の活のしるしとす

かゝるしるしを四段の活のしるしとす
しるし。格なり
かゝるしるしを四段の活のしるしとす
る。二がしるし活の初四段の活と中二段の活又は四段の活と下
二段の活とにこれあり中二段と下二段とに活きて同一
しるしを倒しなかり行四段の活のたぐしを下の
しるしをてしるしなり
○おらぶる 万葉九よさげの於良妣 日本紀崇神卷の叫喚又
雄略卷の叫喚なるのみよて外は活をれを四段の活なり
おらぶるしるし活のしるしなり

○ころも。字鏡又媚^ハ古夫。靈異記又媚^ハ。こびこる。古事
 記上卷又媚附^{コヒツキテ}云々あり此外又活きたる事ありしれど
 こハ活詞と云ふ事あり。漢籍^{カラフミヨミ}読する事あり。こびこる。こびこる。

○きよる。万葉三よしなをしし。強流志斐能我強語^{シヨシロシヒニガガキ}云々又
 六帖曰人言もす。こびこる。

○こびこる。和名鈔に聾和名美之比又盲和名米之比古事
 記のこびこる。外又活きたる事ありしれど。こびこる。こびこる。
 ○こびこる。源氏集本又た。こびこる。こびこる。こびこる。こびこる。
 こびこる。紫のこびこる。こびこる。こびこる。こびこる。

きりこもる。源氏朝貞のこびこる。こびこる。こびこる。こびこる。
 こびこる。源氏朝貞のこびこる。こびこる。こびこる。こびこる。
 行くと六四段の活詞ありけ行かると六四段の活詞ありけ
 ○たけが。古事記上卷の建而^{訓建云}。多邪夫^{多邪夫}。万葉集十一のたけが。
 ひ多鷄備^{ヒカケビ}てたけあり又日本記雄略卷のたけが。たけが。たけが。
 こびこる。割点あり此外の活きたる事ありしれど。こびこる。

外よりいふれどもは法の創り

○かゝる竹取物語かゝるなり蜻蛉日記みよそのめい
かゝるものしぬ葉花物語楚王妻の巻よなしくかゝる
らむかゝるなりかゝるかゝるかゝるかゝるかゝる
たゝるれどもかゝるかゝる創り又世行下二位の活よそ
かゝるかゝるかゝるかゝるかゝるかゝるかゝる
かゝるかゝるかゝるかゝるかゝるかゝる
かゝるかゝるかゝるかゝるかゝるかゝる
かゝるかゝるかゝるかゝるかゝるかゝる

○かゝる葉花物語月宴にありしむすむす又かゝる
かゝるかゝるかゝるかゝるかゝるかゝる

○こゝらゝる日本紀ニ感論ニあり又こゝらゝるハ物語書

よありこれ世行よあり

○かゝる竹取物語よあり

○かゝる玉葉集よあり

○かゝる源氏物語相垂よあり

○かゝる敦忠集よあり

○かゝる蜻蛉日記よあり

○かゝるかゝるかゝるかゝるかゝる

四段の活詞

あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ

あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ

○あしむ 万葉二万葉敵見有とありけ外は流きたるるるる

○いづむ 日本紀神武卷也聚居之此聚居此云怡皮此云又歌明卷之

○うぐわむ 続日本紀宣命小天地乃宇倍奈宇倍奈由流由流之とあり

○おしむ 伊勢物語にありしとあり

○かむ 和名鈔小揚俗云波奈加無波奈加無源氏繪申卷とあり

しむらむ

○かむむ 和名鈔云波奈加無波奈加無源氏繪申卷とあり

○かむむ 靈異記小軒を可可死死日本紀又続日本紀宣命宣命奸奸とあり

○きむむ 好忠集とあり

○さむむ 狭衣とあり

○あしむ 古今集とあり

○志乃かむ 源氏行幸おほききりしよふさふしりしりし

目かへくしるかゝる 枕草紙よきりかひなるおぼふたふしりし

○志乃む 万葉十八よ之保美かれり

○志乃む 源氏明石よりしりしりしりしりしりしりし

志乃しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりし

中物御よりかかれし志乃むなるんきたりしりしりし

○志乃む 松葉紙よしりしりしりしりしりしりし

○志乃む 万葉九よしりしりしりしりしりしりし

於毛志和年なるなり

○たむ 万葉集三よきりしりしりしりしりしりし

榜轉コホム小舟コホネ又十六よやらのと見多来旦ミタラヒしりしりしりし

拾遺シヨウイ花名よきりしりしりしりしりしりしりし

源氏物語しりしりしりしりしりしりしりしりしりし

○志乃む 今撰系列系よき真入そ言枝よきりしりし

ゆきやきとあそ

○志乃む 万葉集十七よよきりしりしりしりしりし

たぎりしりしりし

○おがむ 源氏花鏡幕本よおがむのみ 桜衣よおがむのみ

なむしりしりし

○おがむ 日本紀崇神巻よ和享とあり

○みぢむ 源氏葵よみぢむる有ぞ 紫衣物りしありを居林り
みぢむるみぢむる

○もろかむ 続日本紀宣命の鬼美とあり

○もろむ 和名鈔に倭痺俗云比留無^{ヒル}夜末比^ヤ比^ヒ活^ヒ河とあり

○ふくむ 源氏物語に紫衣にふくむたみ^{フクム}とあり
ふくむたみ^{フクム}とあり

○もろむ 源氏夕白よみぢむる有ぞ 紫衣物りしありを居林り
後撰集雑ふぢむる川のみぢむる

○やくむ 古事記上巻ふぢむる御子とあり 不平^{フクサミ}とあり

日本紀神代巻ふ擧體不平^{ヤサミ}とあり

○やくむ 古事記下巻小瘦^{ヤサカ}菜女とあり

○よむ 万葉集四の老古出て^{ヨム}余年とあり

法のよむ

○なみ居 なみ立るなみ^{ナミ}の交のかけ又^{ナミ}將比疑とあり

行中二肢の法よむ^{ナミ}の交のかけ又^{ナミ}將比疑とあり
なみ立るなみ^{ナミ}の交のかけ又^{ナミ}將比疑とあり

一段の活詞

みる
見

中二段の活詞

此を俗言と云ふ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

○あつむ ちやうきだつむ ちやうきだつむ ちやうきだつむ

あつむ ちやうきだつむ ちやうきだつむ

○あつむ ちやうきだつむ ちやうきだつむ

あつむ ちやうきだつむ

○あつむ ちやうきだつむ ちやうきだつむ

此四段をも波行の中二段をも活きて皆同一なり

○あつむ ちやうきだつむ ちやうきだつむ

伊多牟流るるなまなり右の外なまなり
なまなり ちやうきだつむ ちやうきだつむ
なまなり ちやうきだつむ ちやうきだつむ
なまなり ちやうきだつむ ちやうきだつむ

下二段の活詞

此を俗言と云ふ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

あつむ

o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m

o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m
o r n d m	o r n d m	o r n d m	o r n d m
r n e d m	r n e d m	r n e d m	r n e d m
e d m	e d m	e d m	e d m

○何々
○あ
散木寄歌集
あ

○まゝのまゝ 万葉二十一日の依志米イシメ一とあり

○おのゝゝ 源氏桐壺とありしイたそのゆゑイとあり

○からゝゝ 伊勢物語よりからゝれりイ 落窪物語より
かゝるゝイたゝイあり

○まゝのまゝ 続日本紀宣命より支多米シタメゆイ日本紀皇極
巻歌よりゆイのイかみイとイりイ岐多麻須母シタマモとありけイまイとイるイ
のイまイとイるイ

○まゝのまゝ 源氏行幸よりまイとイりイてイ源毎イとイるイ
まイとイるイ

○まゝのまゝ 於送系雜よりまイとイるイ

○まゝのまゝ 日本紀崇神巻イをイるイとイるイ

○まゝのまゝ 狭衣よりイとイるイとイるイ

○まゝのまゝ 源氏桐壺よりイとイるイとイるイ

○まゝのまゝ 新古今系序よりイとイるイとイるイ

○まゝのまゝ 六帖よりイとイるイとイるイ

○まゝのまゝ 源氏紅葉賀よりイとイるイとイるイ

○とらふもあつる万葉中今ふもあつる延年へや又上メナトモシメ目莫令之
 ○たもあつる万葉十七より波米メ度とあり又しおあはれとあり
 はあなごもあつるあはれとありの語もあはれとあり八日し
 ○たもあつる源氏繪合よりあはれとありこれ活字は
 ○ふりもあつる万葉二か深目フカメ手とあり古今集又何ふふありて
 おもひとあらんたもあつる

○見えもあつる万葉十七又見えミ米とあり
 ○蜻蛉日記よはれはるいのちをほし志むれとあるを新し
 のほりもあつるこれ活字のあはれとあり上はあはれ

也行之圖

并受てにをけの圖

下二段活	中二段活
榮 <small>サカユ</small> 愈 <small>イユ</small>	報 <small>ウケル</small> 老 <small>オユル</small>
(元)	(い)
おんぬいであ	おんぬいであ
しるけうて	しるけうて
おんぬいであ	おんぬいであ
(ゆ)	(ゆ)
おんぬいであ	おんぬいであ
(ゆ)	(ゆ)
おんぬいであ	おんぬいであ
(ゆ)	(ゆ)
おんぬいであ	おんぬいであ

○此行りるを四段の活一段の活なりし

中二段の活詞

此ゆを俗言りるをいふと例あり

○おゆる 源氏手習又年のおゆるまうくともあり

○あゆむ。万葉八よむあゆむ。万葉八よむあゆむ。安要奴がう
たはる。ひりやま。又十小秋は。あゆむ。あゆむ。あゆむ。阿要奴がた
ま。又十八。安由流。実ハ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
○あゆむ。落窪。津。血。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

○あゆむ。源氏。井。川。よ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

○あゆむ。和名。鈴。又。嘶。和名。以。波。由。源。氏。總。角。よ。る。と。あゆむ。

い。あゆむ。後。抄。平。二。葉。よ。路。を。い。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

○あゆむ。万葉。集。二。又。協。流。ま。で。に。源。氏。地。理。書。本。よ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

○あゆむ。万葉。十。四。よ。む。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

○あゆむ。万葉。二。よ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。
あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。あゆむ。

○あゆむ。字。鏡。よ。菘。豆。比。由。と。あゆむ。

○たゆむ 万葉二よかゝるれを波由流とてなす

○たゆむ 於き素よりいひてなす

○たゆむ 靈異記に喚びを保由と訓注あり

○たゆむ 出雲國造神賀詞に御若殿坐忠答素よりと保

素のまはてなす

○たゆむ 赤澤清門のまはてなす

○たゆむ 古事記中巻に御軍皆遠近而日本紀に神瘡なす

の字もたゆむとてなす

○たゆむ 日本紀にたゆむとてなす

○たゆむ

羅行之圖

并受てなす

四段の活

去ル

④

みぬいでま

④

しるはて

まぬかき

④

とらづらめ

④

よまかま

④

おゆを

中二段活

下ル

④

みぬいでま

④

しるはて

まぬかき

④

とらづらめ

④

よまかま

④

おゆを

下二段活

枯ル

④

みぬいでま

④

しるはて

まぬかき

④

とらづらめ

④

よまかま

④

おゆを

○此行を一區の活初なり

四段の活詞

あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ

あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ
あゝ	あゝ	あゝ	あゝ

○ mōrū	mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū

○ mōrū	○ mōrū	○ mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū
○ mōrū	○ mōrū	mōrū	○ mōrū
mōrū	mōrū	mōrū	mōrū

○ mōrū

○ 三十八

○おさかたのうら ちねの後陸の文のおさかたのうら

○おがとる 万葉十ふよふちの本にまゝに於保登禮流とあり

又源氏東屋におがとるのうらとありハ月一海とまゝに

いさとしのうらとありハ此下二位の例

て流き異かたのうらとあり

○おさかたのうら 日本記神武卷の倭媚をおがとる

○かこる 古事記上卷哥のまき山の日記 迦久良波下卷のまき

賀久理の紫十五のまきとあり 我久里かたのうらとあり

上よいへる如く中庸の此下二位の流きのみ用ひ

○かける 古事記下巻の此日の日賀氣流美夜云と祝詞

もあり又新古今集夏と秋のまのかけりてまゝに
とありとありまのかけりてまゝに

○かかるとる 源氏常木とひまのかけりてまゝに

○とる 字鏡の識 伊比久佐礼利とあり

○とる 古今集序の女郎花の一時とあり

蜻蛉日記のまゝに

○とる 竹取物語のまゝに

○とる 紫花物語の月宴の世とあり

○とる 古事記中巻歌の河原の許夜流許夜理母と

よあり又古今集のまゝに依夜の中とあり

○とあるる万葉二十又波奈利蘇乃は...
二段の活きよのといへり

○とあるる日本紀顯宗卷の被を...
とあるる

○とある 和名抄又痢久曾比理乃夜万比又放尾倍比流

○とある 於き集りたの活又...
とあるる

○とある 万葉二十よりその布理古事記下巻より...
とあるる

○とあるる 万葉十五又山川をたうな敵奈里氏など

○とあるる 業花物語花山よかきうせあふとある此の活は

○とあるる 日本紀顯宗卷又被を

○とあるる 万葉十八又雲保妣許里

○とある 古事記上巻又屎麻理ちり

竹取物語ははばくめれ。ま。あ。け。る。か。ら。な。り。な。り。

○ま。あ。る。物。事。は。は。袖。か。り。の。あ。と。あ。り。

○ま。あ。る。古。事。記。上。卷。の。た。く。ま。麻。那。賀。理。と。あ。り。

○む。か。る。万。葉。二十。二。散。年。加。流。ふ。ね。と。あ。り。

○む。か。る。宇。治。抄。の。あ。げ。の。あ。り。か。ま。あ。て。ま。あ。き。

か。き。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

○や。の。あ。る。続。日本。紀。宣。命。に。息。安。麻。流。倍。伎。又。休。息。安。麻。利。且。

○ゆ。る。住。吉。物。語。の。土。と。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

○ゆ。る。神。樂。歌。の。由。須。利。あ。げ。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

○よ。る。源。氏。若。菜。の。よ。る。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

○よ。る。日本。紀。神。代。哥。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
か。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
和。須。良。年。砥。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
は。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
二。段。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
○よ。る。日本。紀。の。誘。聚。源。氏。若。菜。の。あ。り。の。あ。り。
の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。
日本。紀。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。の。あ。り。

〇
 〇
 〇
 〇
 〇

下二段の活詞

〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇

〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇

○あづま〜 源氏物語幕末よのふか〜 空輝き
あづま〜 源氏物語幕末よのふか〜

○あづま〜 字鏡の鰯魚因幡也阿佐礼太利とあり

○あづま〜 物語文にありけりよき事ありとあり

あづま〜 此はなほあり

○あづま〜 源氏東屋よのふか〜 又あづまの

その俄よのふか〜 阿づま

○あづま〜 万葉九文毎〜 香具禮とあり

あづま〜 此はなほあり

○あづま〜 和名抄に漆瘡和名宇流之加不禮とあり

○あづま〜 神樂哥よのふか〜
物伊書か〜

○あづま〜 散木奇歌集よのふか〜

あづま〜 はな〜 阿長哥よのふか〜

あづま〜 丹後守忠家

あづま〜 仲正〜 日か

あづま〜 又綺語抄にあり

あづま〜 此はなほあり

あづま〜 此はなほあり

はちかろくかきも活く初よもたふるゑ

○たけふもゝ 河津のしらべのしらべ

とあり速く炭焼をかき

○さきゝ 史本系書のきりつたを

○さきゝ 狭衣よき

今探和書集より真入

はふりたふるゑ

○さきゝ 古事記上巻より宇す多加札

と四段の法物

○さきゝ 古事記上巻より血瀬

○さきゝ 源氏夕暮よはれ

○さきゝ 日本紀神代巻より血染

千載集

○さきゝ 丹波守為中

神樂歌

(1) 丹波守

丹波守

和行之圖 并受までヨサヤサの國

一段の活	中二段活	下二段活
居 <small>キル</small>	率 <small>ヒキル</small>	植 <small>ウキル</small> 飢 <small>ウキル</small>
か	か	あ
みぬいでま	みぬいでま	みぬいでま
しづかて	しづかて	しづかて
きぬなき	きぬなき	きぬなき
う	う	う
とらぶらめ	とらぶらめ	とらぶらめ
う	う	う
よさみまか	よさみまか	よさみまか
あ	あ	あ
どくを	どくを	どくを

○此行ゆそ二段の活切形

一段の活詞

か
居

○和名抄ノ般俗云爲流船著沙不行也又斷此間云波井流齒
 傷酢也なほあるハ同き又同きよそ異あるヨそ
 羅行の四
 恒の活切もてか
 わり
 ぬれ
 活
 切
 初
 節
 の
 活
 切

中二段の活詞

此くるも活書より
 例
 〇くる物活書より
 〇くる物活書より


~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

安

行よあはれ。そと右ふ拳。~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

文化三年春三月

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

詞ははまら来かいら。~~~~~
~~~~~

毛。文かくおも。~~~~~  
~~~~~

く。~~~~~
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~





はぬもあつむ。此方らまゝはきり  
 本居大平へてよ。し。

本居大平

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

三都

江戸日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

同 通二丁目

山城屋佐兵衛

同 通三丁目

小林新兵衛

同 通四丁目

須原屋佐助

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八

同 芝神明前三島町

和泉屋吉兵衛

同 芝神明前

岡田屋嘉七

大坂心齋橋安堂寺町

秋田屋太右衛門

同 心齋橋北久郎町

河内屋喜兵衛

京都寺町通松原下

勝村 治右衛門版

同 寺町通高辻上

伊兵衛

書肆

